

2019年2月20日

全国の諸教会・伝道所の皆様

東日本大震災 現地支援委員会  
委員長 金丸 真

## 「2019年3月11日 東日本大震災から8年を数えての祈り」の送付について

主の御名を讃美いたします。

これまで東日本大震災現地支援委員会の働きを覚えて祈ってくださり、そして、現在も支えてくださっている皆様に、心から感謝いたします。

東日本大震災と原発事故の風化が叫ばれている中、現地支援委員会では、ぜひ全国の皆様に現地の状況と、現地の思い、そして現地の祈りを共有していただきたいとの願いから、今年も「2019年3月11日 東日本大震災から8年を数えての祈り」を作成しました。今回は、杉山修一牧師（山形キリスト教会）の祈りの原案をもとに、委員会で言葉を出し合い協議して祈りの言葉を紡ぎ出しました。どうか全国の皆様にも、この現地の祈りに心を合わせていただきたいと願っています。

なお、今回の祈りの言葉は、交読文形式で作成しましたので、ぜひ礼拝などで交読してお用いいただければ幸いです。

また、東北だけではなく、様々な場所で災害が起きていることについて、私たちは胸が締め付けられるような思いを持ちながら祈りを合わせています。今回作成した祈りの言葉が、東北だけではなく、様々な被災地域の方々とも思いを合わせる祈りとなりますように願っています。

東日本大震災から8年を経過すると、震災への意識が薄れてきているのも事実です。現地支援委員会は、被災された方々と共に歩ませていただく活動を大切にしていますが、同時に、私たちの減災・防災の意識を高めることも大切だと考えています。この機会に、ぜひもう一度、災害が起きた時にどのような行動を取ったらよいかを教会やご家族などで考えておくことが大切だと思います。例えば、避難先や連絡方法を確認しておくこと、自家用車の燃料は常に半分以上入れておくことなど、今だからこそ、もう一度話し合ってみてください。

最後になりましたが、貴教会・伝道所の歩みの上に、主の祝福と恵みが豊かにありますように、心からお祈りしております。皆様のご支援に心から感謝して。

在 主

---

◆被災地支援募金 郵便振込 00140-9-180881 宗教法人 日本バプテスト連盟総務部

※「被災地支援募金」と明記してください。

日本バプテスト連盟 現地支援委員会 委員長 金丸 真（仙台長命ヶ丘教会）電話/FAX 022-378-1263

- 司式者 主なる神よ、東日本大震災が起きた2011年3月11日から丸8年の時が経ちます。
- 一同 被災者の数は亡くなられた方が1万5,897人<sup>1</sup>、行方不明の方が2,534人<sup>1</sup>です。避難者の方は5万4,288人<sup>2</sup>を数えます。
- 司式者 そのほかにも震災関連で命を落とされた方も3,701人<sup>3</sup>を数えます。
- 一同 被災地では生活基盤の整備は進んでいますが、生活そのものの再建は未だ見通せず、震災をくぐり抜けてきた人たちの心の傷は、うずき続けています。
- 司式者 「あの時」を経験した人の中には、時間の流れが止まったままの状態の人もあります。また、自分が生き延びたことに、後ろめたい思いを抱いている人もいます。
- 一同 主よ、憐れんでください。
- 司式者 昔から言い伝えられてきた「津波てんでんこ」<sup>4</sup>の叫びが聞こえてきます。
- 一同 「津波てんでんこ」は、津波に飲み込まれないための経験知から生まれた言葉です。
- 司式者 人々は、この言葉のはらむ非情さに涙を流しながら、命をつないできました。
- 一同 人々は防潮堤建設、職住分離、嵩上げ工事、高台移転など様々な津波対策を考えてきました。
- 司式者 それは、小さな津波には対応できるとしても、大きな津波には抗うことはできません。
- 一同 主よ、憐れんでください。
- 司式者 限界に挑戦し、困難を克服する人間の英知と努力は賞賛すべきことではなかったでしょうか。
- 一同 人間の底知れない力は文明の発展に寄与し、豊かさをもたらしてきたのではないのでしょうか。
- 司式者 しかし、東京電力福島第一原子力発電所事故から見えてくるのは、謙虚さを忘れ、傲りを生み、貪りをほしいままにしてきた私たち人間の振る舞いです。
- 一同 私たちは、この地を治めることを託された一宿り人にすぎません。
- 司式者 私たちはあなたの御前に悔い改めます。
- 一同 主よ、憐れんでください。
- 司式者 歴史は廢墟を見てきました。人間の築いた栄華で、滅びを免れたものではありません。
- 一同 その廢墟の前で、人間は悲哀を味わい、無力感に打ちひしがれ、忍従を強いられてきました。
- 司式者 穏やかな三陸の海は、豊かな海産物の宝庫として、多くの恵みをもたらしてくれています。
- 一同 しかし、海は、時として沿岸部に住む人々に牙をむいて襲いかかってきます。
- 司式者 助かった命は、亡くなった命を忘れることができません。愛する者の死をどう受けとめていいのか分かりません。
- 一同 どんなに考え悩んでも、この問いを納得させるような答えは見つかりません。
- 司式者 傷みと悲しみを抱きかかえながら、神への問いかけがなくなることはありません。
- 一同 主よ、憐れんでください。
- 司式者 「なぜ」、「どうして」という問いの前にたたずみ、受容の時が少しずつ満ちていくことを祈り求めながら、私たちは「今生かされている時」を受けとめていきたいのです。
- 一同 「神は眞実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」<sup>5</sup>
- 司式者 主よ、憐れんでください。
- 司式者 十字架と復活の主イエスを仰ぎ見ながら、慰めに満ちた執り成しを祈ります。
- と一同 御名が崇められますように。アーメン。

<sup>1</sup> 2018年12月10日現在。<sup>2</sup> 2018年11月12日現在。<sup>3</sup> 2018年9月30日現在。<sup>4</sup> 「津波てんでんこ」は、津波の被害を何度も受けてきた三陸地方沿岸部の人びとの「危機管理の知恵」で、津波から逃れるには各自てんでんこ（“てんでんこ”とも言う。「てんでばらばらに」の方言）逃げろ、という意味である。<sup>5</sup> コリントの信徒への手紙一 10章13節。